S. Ashina

前期：キリスト教と近代的知――宗教哲学構想

オリエンテーション――「キリスト教と近代社会の諸問題」

１．前年度のまとめ――象徴論・言語論

２．近代/ポスト近代と宗教哲学構想

２－１：近代の知的状況における宗教思想

２－２：批判哲学から批判的実在論へ

２－３：シュライアマハーの宗教哲学

２－４：ティリッヒの宗教哲学

１：ティリッヒの宗教哲学構想と意味世界

２：ティリッヒの象徴論

３：ティリッヒの神話論――シェリング、カッシーラー、ブルトマン 6/24

２－５：波多野精一の宗教哲学

１：波多野宗教哲学と実在論 7/1

２：波多野宗教哲学の方法論、そして象徴論 7/8

２－６：ヒックと批判的実在論 7/15

２－７：言語から宗教的実在へ

１：リクールと解釈学的プロセス 7/22

２：イエスの譬えの読解プロセス 7/29

２－８：言語論と宗教哲学 10/7

２－９：次元論と宗教哲学 10/14

後期：キリスト教と社会理論――経済と環境

＜前回＞

２－４：ティリッヒの宗教哲学

１：ティリッヒの宗教哲学構想と意味世界

＜宗教哲学構想＞

宗教の可能根拠を人間存在から論じる。

Ａ．宗教の概念規定　Ｂ．宗教批判　Ｃ．宗教的多元性

（1）ティリッヒと宗教哲学

１．二つの宗教哲学構想→ＡとＢを中心に、Ｃは潜在的、問題を残す。

２．意味の形而上学

４．意味意識の分析（意味の現象学）・「形式と内実」（Form / Gehalt）

「文化は宗教の形式であり、宗教は文化の内実である。」

意味連関（部分と全体）と意味根拠（根底と深淵、Grund / Abgrund）

意味連関の歴史性

５．基礎的存在論と相関の方法

基礎的人間学・「問いと答え」（Question / Answer）

意味を問う存在者、自己の意味（人間とは、自分の存在が問いである存在者である）

問いの表現としての文化

８．神学に限らず、そもそも学・科学とは、問題解決の試み（探究過程）と捉えられる。
学はそれ固有の問いを立て、固有の方法によってその解決を試みる。
↓
学としての神学の営みは、いかなる問い（問いの定式化）を、いかなる方法で探究しようとするのか？ その問いに対して､いかなる解決を与えるのか？　という観点から、つまり、「問いと答え」に規定された構造において論じることができる。

10.「問いと答え」の定式化における哲学（あるいは哲学的要素）の役割

ティリッヒは､『組織神学』における神学が答えることを求められる「問い」について、それが時代状況において変化することを確認した上で、状況において提出される問いを問いとして定式化する役割を果たすのが哲学であると述べる。したがって、ティリッヒにおいて、「問いと答え」相関は「哲学と神学」相関として具体化されることになる。

14. 二つの宗教哲学構想と意味論

意味世界：個と共同体

意味概念：主観性・客観性・相互主観性

（２）意味世界と宗教の概念規定→Ａ

１．宗教の概念規定の意義：還元主義→全体論、実体的概念→機能的概念

３．人間の生物学的条件から。「人間はもっとも不完全な動物である」。

20 世紀の哲学的人間学：不完全さ＝誕生時の環境適応力の欠如＝自由（活動によって自己と世界を構築できる)。「人間は意味に固執する存在である」。

５．「象徴を操る動物としての人間」（カッシーラー）→意味世界の構築

象徴を操る能力によって構築された世界（自らの存在意味が確認できる世界、自分らしさが確保できる世界）を「意味世界」と定義する。

６．では、意味世界はどのような仕方で構築されるのか。

知識社会学（バーガー＋ルックマン）：個人と社会の弁証法

７．こうして構築されたわたしたち人間の意味世界は次のような特性を持つ。

・意味世界は相対的である、歴史的あるいは偶然的である　→　恣意性

・意味世界は意味世界内部では根拠付け得ない。ゲーデルの不完全性定理。

↓

世界の無根拠さ

８．意味に固執する動物としての人間と無意味性の脅威

→　人間は意味世界を安定化させるものを求める。

９．Ａ：無根拠な意味世界を安定化させる装置として社会的心理的に生み出されたのが、「意味世界の根拠付けとしての宗教」（なぜに答える、生に意味を与える宗教の機能）である。

根拠付け→正当化と転換の二重性（イデオロギーとユートピア）

10. 以上の結論：「人間は本質的に宗教的である」

「自分自身についての問いと神への問いの共属性」（パネンベルク）

12. ティリッヒによる宗教の概念規定（Ａ）

広義の宗教概念（意味根拠としての宗教・意味世界の正当化としての宗教）と狭義の宗教概念（制度化された既成宗教・常識的な意味での宗教）との区別。

S. Ashina

２－４：ティリッヒの宗教哲学
２：ティリッヒの象徴論

（１）宗教的象徴の問題圏

１．広義の宗教と狭義の宗教（可能性と現実性）
　　現実化の素材としての宗教的象徴
２．狭義の宗教と世俗領域との関係　→　多義性、隠喩
　　バーク：ロゴロジー、世俗から宗教へ、宗教から世俗へ

We are to be concerned with the analogy between "words"（lower case）and The Wird（Logos, Verbum）as it were in caps. "Words" in the first sense have wholly naturalistic, empirical reference. But they may be used analogically, to designate a further dimension, the "supernatural." Whether or not there is a realm of the "supernatural," there are *words* for it.

the word "grace"
　purely secular meaning as: favor, esteem, friendship, partiality, service, obligation, thanks, recompense, purpose.（7）
"Create"
"Spirit"
analogy

３．宗教経験・宗教的象徴・概念体系
　　メッセージの表現形態としての象徴
４．生と意味（リクール）／形態と概念（儀礼と神話）
　　解釈学と力学
　↓
５．象徴・宗教的象徴と人間的現実との関わり
　　人間的実在は象徴によって構成される。
　↓
６．意味の形而上学：意味意識の現象学、認識の現象学
　　認識行為→行為（志向性）と対象（志向されるもの）
　　思惟／存在／精神　→　学の体系
　意味連関（とその指示対象としての世界）と意味根拠（Grund / Abgrund）
　　形式（Sinnform）　　内実（Sinngehalt）
　　Das Unbedingte

（２）ティリッヒの象徴論

1920 年代：意味の形而上学→1950年代：基礎的存在論
　　志向性（Richtung）　　関心（concern）

＜ Das religiöse Symbol(1928), MW.vol.4 ＞

I. Das Symbol
II. Theorien des religiösen Symbols

III.Die Arten des religiösen Symbols
IV.Werden und Vergehen der religiösen Symbole

７．象徴一般(Symbol überhaupt)の４つのメルクマール
非本来性／具体的直観性／内在的力動性／承認性
・Das erste und grundlegende Merkmal des Symbols ist die *Uneigentlichkeit*.
der innere Akt, der sich auf das Symbols richtet, nicht das Symbol meint, sondern das in ihm Symbolisierte.
・die *Anschaulichkeit*
ein wesensmäßig Unanschauliches, Ideales oder Transcendentes im Symbol zur Anschauung und damit zur Gegenständlichkeit gebracht wird.
・die *Selbstmächtigkeit*
die Trennung von Zeichen und Symbol
eine ihm selbst innewohmnennde Macht
・die *Anerkanntheit*
das Symbol sozial eingebettet und getragen ist.
８．意味と指示
非本来性：多義性　←　宗教（狭義）と世俗の動的連関
哲学的象徴論
意味連関の多重性（＝世界の多元性）
人間精神の諸領域における形式的原理
９．生と意味
具体的直観性、内在的力動性　→　象徴の美的あるいは心理的次元
文化の神学（芸術の神学）の文脈
↓
実在論
10．宗教の社会性と象徴
われとわれわれの弁証法　→　承認性
宗教社会主義の文脈
11．宗教的象徴、宗教と文化
「宗教とは無制約的なものへ向かう志向性であり、文化は制約的な意味の諸形式へとその統一性に向かう志向性である。」
「無制約的なもの自体は決して対象とはならず、無制約的ものがそこで直観される象徴だけが可能なのである。信仰は制約的なものから取り出された象徴を通して無制約的なものへ向かう志向性である。」

＜ Dynamics of Faith (1957), MW.vol.5 ＞
III.Symbols of Faith
1.The Meaning of Symbol
2.Religious Symbols

S. Ashina

3.Symbols and Myths

Man's ultimate concern must be expressed symbolically, because symbolic language alone is able to express the ultimate.（250）

These are the main characteristics of every symbols. Genuine symbols are created in several spheres of man's cultural creativity. We have mentioned already the political and the artistic realm. We could add history and, above all, religion, whose symbols will be our particular concern.（251）

12. 指示性（point beyond themselves to ）：
　　記号としての象徴
　参与性（participation）：
　　記号一般との差異
　開示性（open up）：
　　心理的実在、内と外の相関→自己同一性、自己の統合性
　　美的実在とその経験
　無意識性（the individual or collective unconscious dimension）：
　　社会的機能（政治的、宗教的）
　非恣意性（cannot be invented）：
　　個人による恣意的意図的行為によっては象徴は生じない。
　　↓
　存在論的概念枠：参与・開示

13. 宗教的象徴

man's ultimate concern must be expressed symbolically

eveything which is a matter of unconditional concern is made into a god.（251）

Another group of symbols of faith are manifestations of the divine in things and events, in persons and communities, in words and documents. This whole realm of sacred objects is a treasure of symbols. Holy things are not holy in themselves, but they point beyond themselves to the source of all holiness, that which is of ultimate concern.（253）

14. ティリッヒの象徴論の特徴と問題点
　・包括的な議論　→　マクロな構図において優れている。基本的な方向性は明確。
　・細部の曖昧さ　→　理論の再構築の必要性。
　　意味と指示
　　言語的契機と非言語的契機
　　形態の解釈学
　　われとわれわれの関係性　→　システム論
　　狭義の宗教と文化との関連性

15. キリスト教思想史、特に神学における諸理論との相互連関・比較という課題

・バルト神学：神の言葉の神学、アナロギア→神の非対象性と対象化
・ブルトマン：非神話論化、言葉の出来事→世界観と信仰
・宗教学における神話論や儀礼論との積極的な関連づけ
象徴論　→　キリスト教についての文化人類学的研究の可能性
フィールド調査を含めて。

＜文献＞

１．*Paul Tillich. MainWorks・Hauptwerke*, Vol.1-6/Bd.1-6, de Gruyter.
Vol. 4: *Writings in the Philosophy of Religion* (ed. by John Clayton), 1987.
Vol. 5: *Writings on Religion* (ed. by Robert P. Scharlemann), 1988.
邦訳：『ティリッヒ著作集』白水社。
２．芦名定道「パウル・ティリッヒと象徴の問題」、『基督教学研究』
（京都大学基督教学会）第 7 号、1984 年、78-92 頁。
３．Kenneth Burke, *The Rhetoric of Religion. Studies in Logology*, University of California Press,1961.
４．岩谷彩子『夢とミメーシスの人類学――インドと生き抜く商業移動民ヴァギリ』
明石書店。